

機関名	所在地と立地時期	機関の類型
(独) 酒類総合研究所	広島県東広島市 (平成 7 年)	教育・研究
＜業務内容＞ 酒類の高度な分析及び鑑定、品質評価、酒類業に関する研究及び調査 成果の普及、情報の収集、整理及び提供、講習		
＜職員数＞ 39 名（広島事務所の職員数）		

(1) 機関、所在都市の概要、立地の経緯

1) 機関の概要¹

独立行政法人酒類総合研究所（以降、「研究所」と表記。）の前身醸造試験所は、明治 37 年、古くから伝来の技術のみに頼っていた当時の酒造方法を改良発展させるため、酒類の醸造技術を科学的に研究する国立研究機関として大蔵省に設置され、昭和 34 年に国税庁の直属研究機関となった。創設以来、酒類醸造に関する科学的研究が行われ、全国の酒造技術者の養成を通じて、我が国の酒類醸造技術の向上・発展に寄与している。

昭和 63 年「国の行政機関等の移転について」の閣議決定を受けて、平成 7 年から醸造研究所と改名されるとともに、東京都北区から東広島市に移転した。さらに、中央省庁等改革の一環として、平成 13 年からは、独立行政法人酒類総合研究所として、酒税の適正かつ公正な賦課の実現に資するとともに、酒類業の健全な発達を図り、あわせて酒類に対する国民の認識を高めることを目的とした活動が開始された。

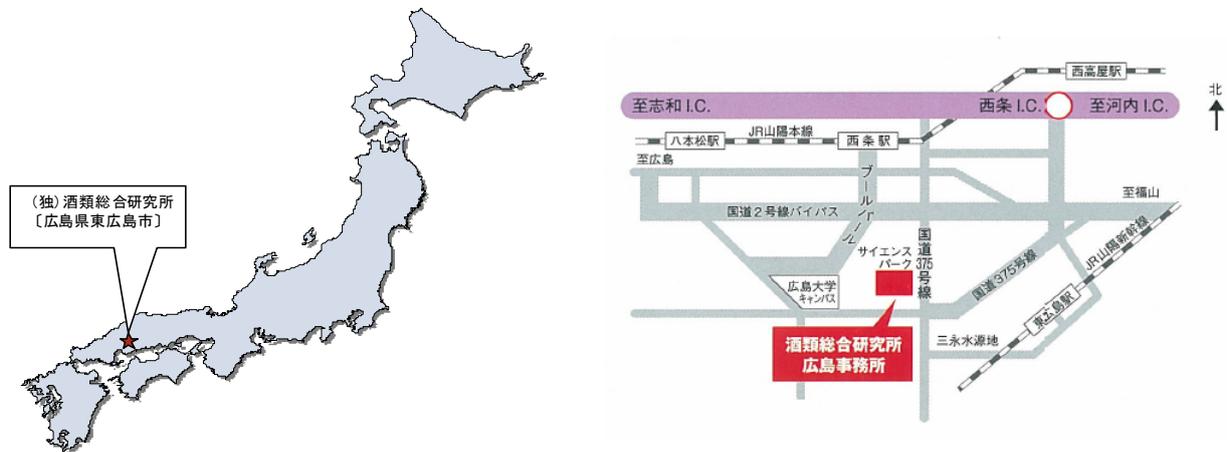


図 1 位置図

出典：酒類総合研究所パンフレット（(独) 酒類総合研究所）、HP (<http://www.nrib.go.jp/index.html>)

¹ 「独立行政法人酒類総合研究所の沿革」より作成

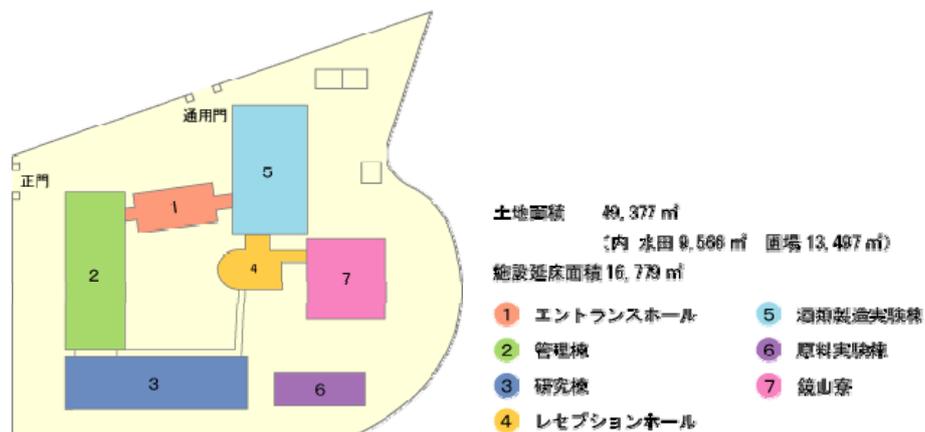


図 2 配置図

出典：酒類総合研究所パンフレット（(独)酒類総合研究所）、HP（<http://www.nrib.go.jp/index.html>）



管理棟外観



玄関ホール外観

図 3 外観

2) 所在都市の概要²

昭和 49 年、広島県内の賀茂郡内の西条町、八本松町、志和町、高屋町の 4 町が合併し、市制が施行され、東広島市となった。

東広島市においては、「人間と自然の調和のとれた学園都市」を将来の都市像に掲げ、賀茂学園都市建設、広島中央テクノポリス建設の 2 大プロジェクトにより、広島大学の統合移転や近畿大学工学部の移転統合など学術研究機能の集積を進めると共に、産業団地、産業支援機関などの産業基盤の整備や、新幹線東広島駅、山陽自動車道など高速交通網の整備などにより、都市としての骨格を形成してきている。

また、既存産業の活性化、さらには成長性のある企業の立地促進等の取り組みにより幅広い分野の産業の集積の結果、人口の増加、製造業出荷額、小売販売額の増大が実現している。国勢調査による夜間人口でみると、平成 17 年 18.4 万人から、平成 22 年 19.0 万人と増加した。なお、平成 17 年には、黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町、安芸津町と合併している。

² 「第四次東広島市総合計画 平成 19 年-32 年」（東広島市）より作成

表 1 所在都市の概要

市町村名	人口 (人)	面積 (k m ²)	人口密度 (人/k m ²)
広島県東広島市	190,043	635.32	299.1

資料：人口：平成 22 年国勢調査速報値（総務省）、面積：平成 22 年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）

昭和 55 年以降の東広島市および西条地区の人口推移をみると、一貫して増加してきている。

また、近年の歳入決算額の推移をみると、自主財源の中心である地方税の割合を高めてきていることが分かる。

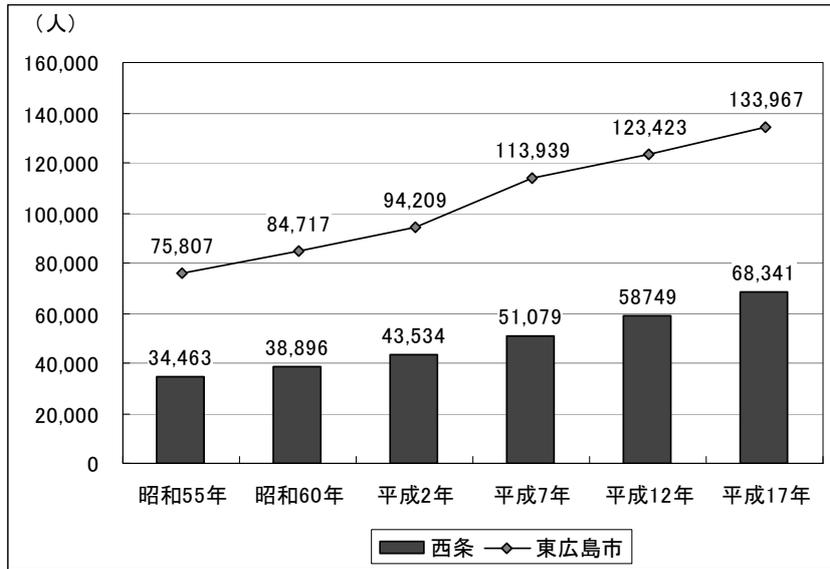


図 4 人口の推移

資料：国勢調査（総務省）、平成 17 年の東広島市は合併前の旧市

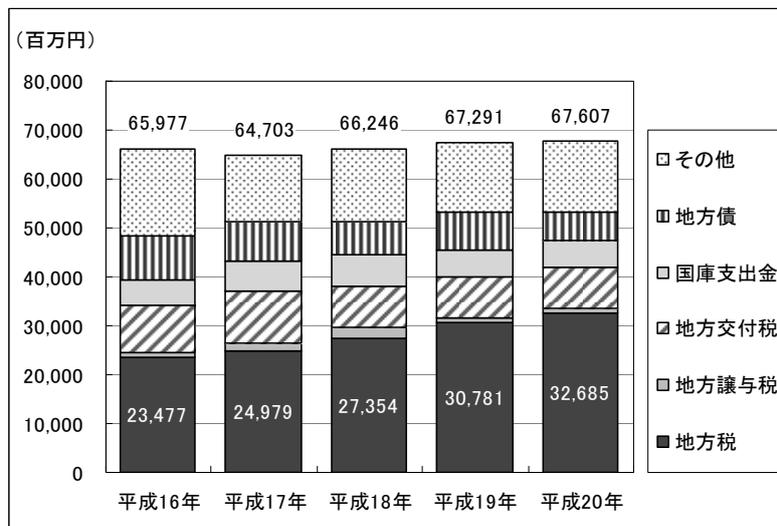


図 5 歳入決算額の推移

資料：統計でみる東広島（東広島市）



図6 位置図

出典：広島中央サイエンスパークパンフレット（広島中央サイエンスパーク研究交流推進協議会）、東広島市企業立地 NAVI2010（広島市産業部産業振興課）

3) 機関の立地の経緯³

全国 20 数府県から研究所への誘致要請があったが、用地、アクセス等の条件にかなった東広島市への移転が決定された。東広島市周辺はもともと穀倉地帯であり、全国有数の醸造地として知られていることも、立地決定にあたり影響している。

当時、広島県では、研究所が立地する広島サイエンスパークの用地整備を進めており、交通も新幹線の東広島駅に近く、広島空港の近隣であるなどの利点があった。また、東広島市は研究学園都市構想を持っており、それにも合致していた。広島県及び東広島市では民間を含めた誘致委員会を結成し、一貫した誘致運動を行っていた。

³ 酒類総合研究所、東広島市ヒアリングより

(2) 特徴的な取り組みの経緯、効果

1) 酒蔵を活かしたまちづくりのシンボルとしての効果

- ・ 研究所は、日本で唯一のお酒に関する国の研究機関であり、その活動成果を広く全国民に提供することが業務の基本となっており、その趣旨に沿って産学官連携、施設の公開、地元酒類業界への協力、職場体験学習等の活動を通じた地域連携に取り組んでいる。
- ・ 地元の東広島市は、重要な観光資源として「酒都・西条」を PR しており、酒類総合研究所をそのシンボリックな存在として位置づけている。
- ・ 具体的な取り組みとしては、西条においては、日本酒の銘醸地としてはじめて平成 20～21 年度の 2 ヶ年に渡り、「中小企業庁 JAPAN ブランド育成支援事業」に採択され、国際的なブランド化に向けた活動を行った。酒類総合研究所は、西条産地呼称清酒の認証制度の品質審査会に審査員として参加している。
- ・ 全国でも珍しい酒をテーマとした「酒まつり」が平成 2 年から毎年開催されており、全国のお酒を提供するイベントに、研究所もお酒を出展している。

<東広島市の担当者の声>

- ・ 東広島市では「酒都・西条」を PR しており、研究所はそのシンボリックな存在。
- ・ 酒造メーカーは小規模であり、業界で指導的な立場にある研究所が地元にあることが“支え”である。
- ・ 西条だけへの支援は難しいかと思うが、現在は日本酒全体のマーケットを拡大することが重要。そこに研究所が貢献してもらえると助かる。

平成 16 年度以降の全国の酒類販売量が減少傾向のなか、平成 18 年度までは東広島市における酒類販売量は増加傾向にあった。平成 19 年度に減少後、平成 20 年度には増加している。

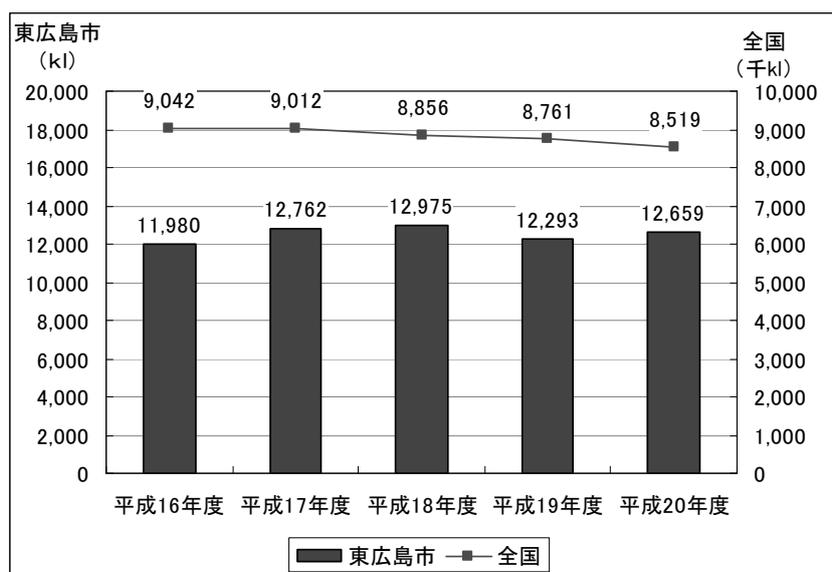


図 7 酒類販売（消費）数量の推移

資料：統計でみる東広島（東広島市）、国税庁統計年報（国税庁）

具体的取り組みとその効果は以降のとおり。

① ブランド化“SAIJO SAKE”に向けた取り組み

西条は日本酒の銘醸地としてはじめて平成20～21年度の2カ年に渡り、「中小企業庁 JAPAN ブランド育成支援事業」⁴に採択され、東広島商工会議所が主体となった【西条酒 JAPAN ブランド確立事業】を展開した。

具体的には、平成20年度においては、灘・伏見と並ぶ三大銘醸地としての強み、海外市場での日本酒ブームを背景として、外国人にも西条酒の特徴が伝わる名称、ロゴ・マーク等の制作、西条産地呼称清酒認証制度の検討、外国人を意識した共同商品の検討や商品ラベルの整備を行っている。さらに、平成21年度においては、西条酒造協会が定めた品質認証基準「西条産地呼称清酒認証要綱」を受け、新商品を「SAIJO SAKE Taste Japan」として世界に向けて発信した。

研究所は、西条酒造協会主催の品質審査会審査員として参加し、認証基準（下記参照）の検討に協力した。また、認証のための審査も研究所の施設が使われた。

【西条産地呼称清酒認定 制度】

西条酒造協会(10社の蔵元加盟)では、西条でしか出来ない高品質の酒づくりをめざし独自の認証基準をつくっています。この審査基準をクリアし、麴のうまみを活かした、吟醸酒及び純米酒だけが「西条酒」として、その名を名乗ることができます。

《認証基準》

- 1、伝統的な広島流の三段仕込みにより製造されたものであること。
- 2、広島県産の酒造好適米100%使用のものであること。なお、広島県産の山田錦も含める。
- 3、会員が管理する井戸水を使用したものであること。
- 4、精米歩合は吟醸酒は50%以下、純米酒は60%以下のものであること。
- 5、別に定める審査に合格したものであること。

<東広島市の担当者の声>

- ・ マーケット開拓、開発について、中小企業だけでは難しい。そのため、西条酒造協会による JAPAN ブランド「西条酒」の取り組みにあたっては、成分・香りへのお墨付きがもらえるよう、審査基準の検討を研究所に相談した。
- ・ 今後の日本酒の海外へのブランド展開にあっても、小規模のメーカーでの取り組みは難しいことから、品質管理（流通において品質が落ちることが心配）等の観点から、研究所の研究・鑑定機能への期待がある。

⁴ 平成16年度から実施されている経済産業省中小企業庁の事業。地域の優れた産品や技術等を活かし、世界に通用する地域産品のブランド力（「JAPAN ブランド」）確立を目指し、地域の中小企業等が一丸となって行う取り組みに対して、ブランドの創成から発展に向けた段階的支援を行うもの。



図 8 SAIJO SAKE ホームページ（英語版）

narrow strip of land. That's why most of the area's 9 sake breweries were established in a very small section of Saijo. It's not hard to find; just look for the traditional black-and-white sake breweries with tall brick chimneys, packed together in one neighborhood.

There, Saijo's water is combined with the pure rice grown in the Hiroshima plains and mountains. Then it's brewed with care using techniques refined by the guild of the region's master brewers, known as *Hiroshima Toji*. The result can only be called pure pleasure—revealed in the subtle flavors of Saijo sake.

While the ten breweries in Saijo share much in their history, water and rice, each has its own story to tell. So why not visit them all? All you need to know about sake, you will find in Saijo.

Keeping the Water and Mountains Clean



For every 1.8 liters of sake sold, the Saijo Sake Brewers Association donates one yen to a volunteer group that several times a year goes to the Ryo mountains near Saijo to clean the mountains, collect wood, and make fertilizer from it to preserve nature and purify the water.

Researching Sake



Photo provided by the National Research Institute of Brewing

The National Research Institute of Brewing was originally established in 1904 by the Ministry of Finance of the Government of Japan with the aim of improving the quality of Japan's alcoholic beverages and the stability of their production. It is the only research institute in the world focused on alcoholic beverages. For more information, visit:

www.nrib.go.jp/English/index.htm

[TOP](#)

図 9 SAIJO SAKE ホームページ（英語版）（酒類総合研究所が立地していることをPR）

② 酒まつり⁵

酒まつりは、従来の酒造祈願祭である「西条さけまつり」と、合併による地域の一体感を醸成するための「みんなのまつり」を一つにして、「酒」をシンボル化させた祭りであり、西条駅近くの酒蔵通り、公園において、平成2年から開催されている。

酒まつりは、研究所の移転後2年目の平成9年からは、東広島市をはじめ、東広島商工会議所、東広島青年会議所、西条酒造協会、広島中央農業協同組合、市内各団体など各層の支援のもと(社)東広島市観光協会の主催行事として実施されている。酒まつりに、研究所は、東広島市からも参加の要請があったことから協力し、全国のお酒を提供するイベントに、研究所もお酒を出展している。

近年では2日間で20万人以上の人出があり、東広島市、広島市からの参加者が6~7割であり、残りのうち県内では2割程度となっている。また、7割がリピーターであり、来年もまた来たいという回答が9割を超えている。

酒まつりへの人出も含めて、東広島市の入込客は、年間266万人(平成21年)となっている。

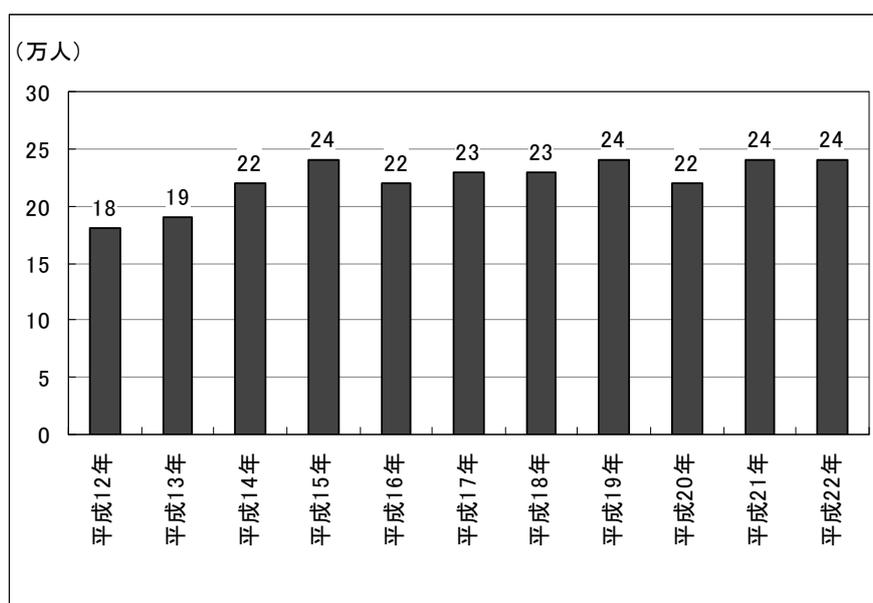


図10 酒まつり来場者数の推移

資料：東広島市観光協会資料

⁵ 「観光地域づくり事例集(中国地方版)」(国土交通省中国地方整備局)

http://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/kankou/pdf/12_saijou.pdf

<http://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/kankou/pdf/Jirei2-4.pdf>

昭和47年から、西条酒の高揚と日本酒の振興を図るため、酒造祈願祭を「西条さけまつり」として一般開放していた。また、昭和49年の4町合併による地域の一体感を醸成するため、昭和54年から「みんなのまつり」を開催していた。

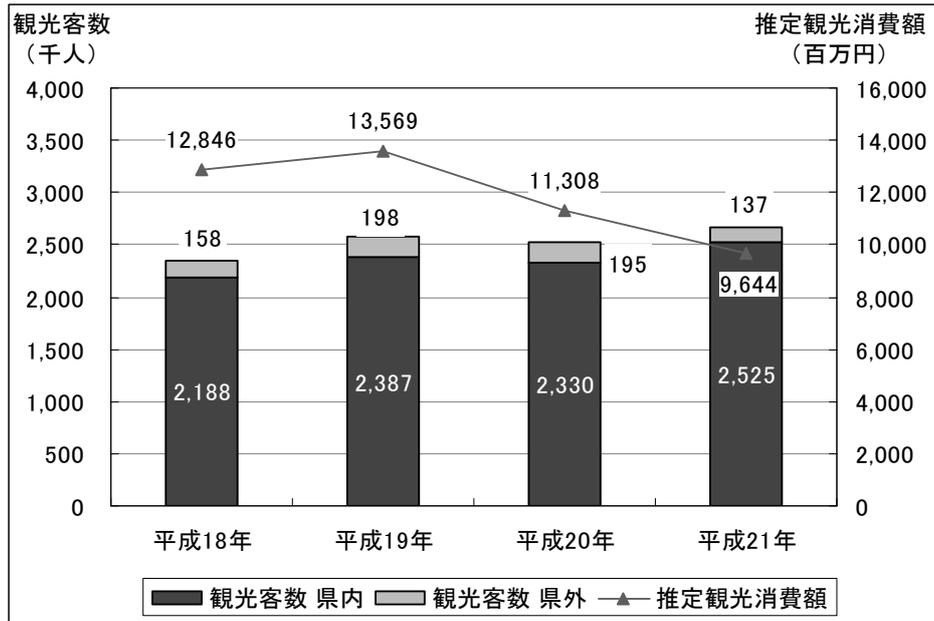


図 11 東広島市観光客数及び観光消費額の推移

資料：統計でみる東広島（東広島市）

③ 鑑評会の実施

毎年 5 月に開催している全国新酒鑑評会（酒類総合研究所と日本酒造組合中央会の共催）は、出品された新酒を香気成分分析、官能評価等の観点から評価し、金賞、入賞を決めるものである。

この鑑評会の製造技術研究会（製造者を対象とした技術研鑽のためのきき酒会）には全国から千数百名の清酒製造関係者が参加しており、地元には市内ホテル等での宿泊による経済効果を及ぼしている。

2) 広島中央サイエンスパーク内および近接する広島大学等との連携による効果

- ・広島大学に隣接した広島中央サイエンスパークには、県内トップクラスの研究機関が集積し、研究開発や人材・学術交流が行われている。また、東広島市域には、広島大学のほかにも近畿大学工学部などの高等教育機関があり、エレクトロニクス、メカトロニクスなど先端技術産業の集積が進んでいる。
- ・これらサイエンスパークの施設公開により、「国民・地域住民が科学技術に親しみ、酒類に関する関心と理解を深める機会」が提供され、また、各種機関・企業と酒類総合研究所の連携が研究活動の高度化につながっている。

① サイエンスパーク施設公開、施設見学による効果

研究所が立地しているサイエンスパークにおいては、地域企業や一般県民、学生等を対象に立地機関の施設の一般公開を行い、各機関の研究内容や試験機器等を紹介し、企業の共同研究の動機付けや、科学技術の普及啓発を図っている。一般公開は平成 8 年から年 1 回定期的に実施しており、毎年千名程度の見学者を受け入れている。

施設公開の主催は、広島中央サイエンスパークであり、サイエンスパーク内での協議会として「広島中央サイエンスパーク研究交流推進協議会」がある。総会は、理事長が出席、幹事会は総務課長が出席しており、打合せ会議では総務係長、担当者が出席している。サイエンスパーク全体での見学会等の実施について話し合うものである。

また、研究所は、科学技術に親しみ、酒類に関する関心と理解を深める機会を国民に提供するための施設見学を実施しており、年間で千数百名を受け入れている。

この背景としては、独法化以降、国から、国民への情報提供を積極的に行うよう要請があり、移転を機に、見学受け入れが可能なよう施設を作ったことが挙げられる。

受け入れにあたっては、お酒の造り方について順を追ったルートで施設内を見学できるようになっており、見学者アンケートの結果をみると、見学者は全国から来ており、概ね好評である。

なお、広島中央サイエンスパーク内の他の機関から、研究所の見学依頼が来ることがあり、随時対応している。

② 研究生制度を活用した積極的な人的資源の確保、他機関との連携

研究所は研究生制度を活用した人的資源の確保を進めている。具体的には、1) 広島大学との連携大学院制度を活用し、大学院生を研究生として受入れている。また、2) 共同研究を従来以上に推進することにより共同研究員の増員を図っている。さらに 3) 研究生の積極的な受け入れとして、研究課題のうち、業界からの要望に基づくものについて、研究生が会社から持参する技術的な課題を解決するスタイルの研修を行い、業界の要望にこたえるような研究パフォーマンスを確保している。

このうち、広島大学との連携大学院協定については、平成 22 年度は 31 名の大学院生が研究所で微生物を主体とする研究活動を行っている。

研究所としては、成果をだせる研究の担い手が得られる一方、大学院としては、先端的な研

究の指導が得られる、あるいは実験材料の提供が受けられるという意味で、win-win の関係を築いている⁶。

<独立行政法人評価委員会における関連する議論>

奥村分科会長 酒類総研にとっても刺激を受けるところがあるんですか。

魚住委員 成果を出す、実験のやり手ですから。

奥村分科会長 実験の肉体労働をやってくれているということですか。

平松理事長 はっきり申し上げますと戦力です。重要な戦力になっています。そういう意味で、大学からはれっきとしたものをもらわなくて、我々は戦力を提供してもらおう。我々は指導する、あるいは実験材料をうちが提供する。そういう意味で収支相償という形で大学とは話がついております。

奥村分科会長 すごくうまくいっているんですね。

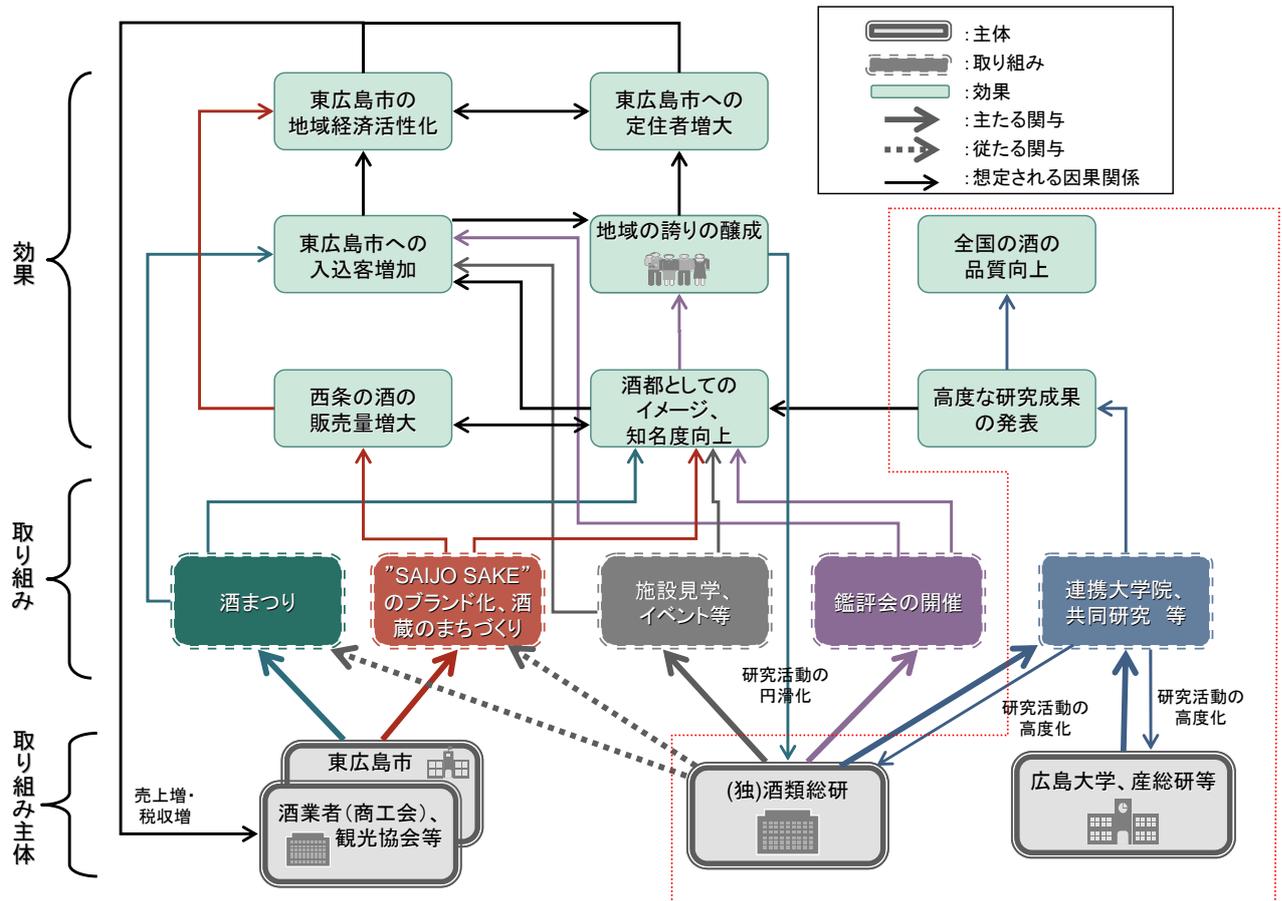
平松理事長 大変うまくいっております。

また、平成 22 年 4 月より産業技術総合研究所中国センターがサイエンスパークに移転してきた。従来呉市に立地していた時から、バイオエタノール関連で連携しているが、近隣に移転してきて、相互に相談はしやすくなっている。

⁶ 第 25 回独立行政法人評価委員会 酒類総合研究所分科会 議事録

取り組みとその効果相互に想定される関連性

”SAIJO SAKE”のブランド化、酒蔵のまちづくり、酒まつり等による観光振興の効果



連携大学院、共同研究等による産業振興の効果